論壇

比重増していく新興国市場

伊藤　元重

低価格の自動車、パソコン

先日、インドのタタというメーカーが二十万円という価格の自動車の販売を開始し、大きな話題になっている。助手席側のサイドミラーがなかったり、あるいはエアコンが付いていないなど、我々の常識では考えられないような安作りの自動車ではあるが、それでも途上国の市場で利用するには十分だろう。

このような超低価格の自動車がすぐに日本に入ってきて日本車と競争するとは考えにくい。しかし、これから世界の中で自動車の需要が急速に伸びていくのは新興国や途上国であり、そうした市場ではひょっとしたら強烈な競争力を持つ自動車になるかもしれない。

自動車で起きていることは他の製造業の世界でも起きている。パソコンなどもその例だろう。最近は家電店に行けば、一台五万円前後のノートパソコンがいろいろと置いてある。少し前であれば、ノートパソコンは十万円から二十万円はする値の張る商品というイメージであったが、今や五万円で買えるのだ。

先日、知人が低価格のパソコンを使っていたので、いくらで購入したのか聞いたら、タダだったと言う。どうも、電話会社と無線通信の契約をするとパソコンがタダで付いてくるようなプランまであるようだ。通信契約が条件とはいえ、パソコンがタダでもらえる時代になったとは驚きだ。

以前にもこの欄で紹介したように、今や世界中のパソコンが中国国内で組み立てられている。最大手の組み立てメーカーは、私の手元にある少し古い資料によれば台湾系のメーカーで、広東省に五十万人以上の従業員を抱える大工場を持っていて、世界の主要企業のパソコンを組み立てているという。こうした生産方法で作れば、五万円のパソコンが出てきてもおかしくない。

もっとも、パソコンの話はこれで終わるわけではない。先日、ある雑誌を見ていたら、インドあたりで一台数千円のパソコンが出始めているようだ。クラウドコンピューティングという手法を使い、パソコン本体には記憶装置やソフトウエアをほとんど持たないで、通信機能を通じていろいろな操作を行う機械らしい。

土台崩れる日本のお家芸

自動車やエレクトロニクスと言えば、日本のお家芸と考えている人が多くいる。確かにこれまで日本の企業はこれらの分野で素晴らしい成果を上げてきた。しかし、今その土台が根本から崩れようとしているのかもしれない。今後、中国やインドに代表される途上国・新興国の比重はますます大きくなってくるだろう。自動車でも携帯電話でも、こうした新興国の市場が圧倒的に大きくなる。そしてこれらの市場では、値段が圧倒的に安くなければ売れないのだ。

かつての日本を思い出してほしい。戦後の日本は、トランジスタラジオからテレビや自動車まで、安い商品をたくさん生産してきた。最初、日本製品は安物扱いしかされなかった。しかし、時間をかけて品質を上げて米国や欧州などの先進国に市場を広げてきたのだ。しかし、今や中国やインドなどの新興国が、かつて日本がやってきたように、圧倒的に安い商品を作り始めている。そして、当時の日本と今の新興国が違うのは、彼らが先進国よりも途上国や新興国に市場を求めているということだ。

こうした中で日本はどこに競争力を求めていったらよいだろうか。この点にすぐに答えるのは難しいが、二つだけ指摘しておきたい。一つはこれまで成功したやり方や商品にこだわってはだめだということ。そして、もう一つは途上国に対して圧倒的な競争力を持つためには科学技術やデザインのような先端的な技能をもっと磨かなくてはいけないということだ。

（総合研究開発機構理事長・東大教授）

＊この記事は、静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。

静岡新聞　2009年3月30日掲載